

2. 重要用語解説 ⑦

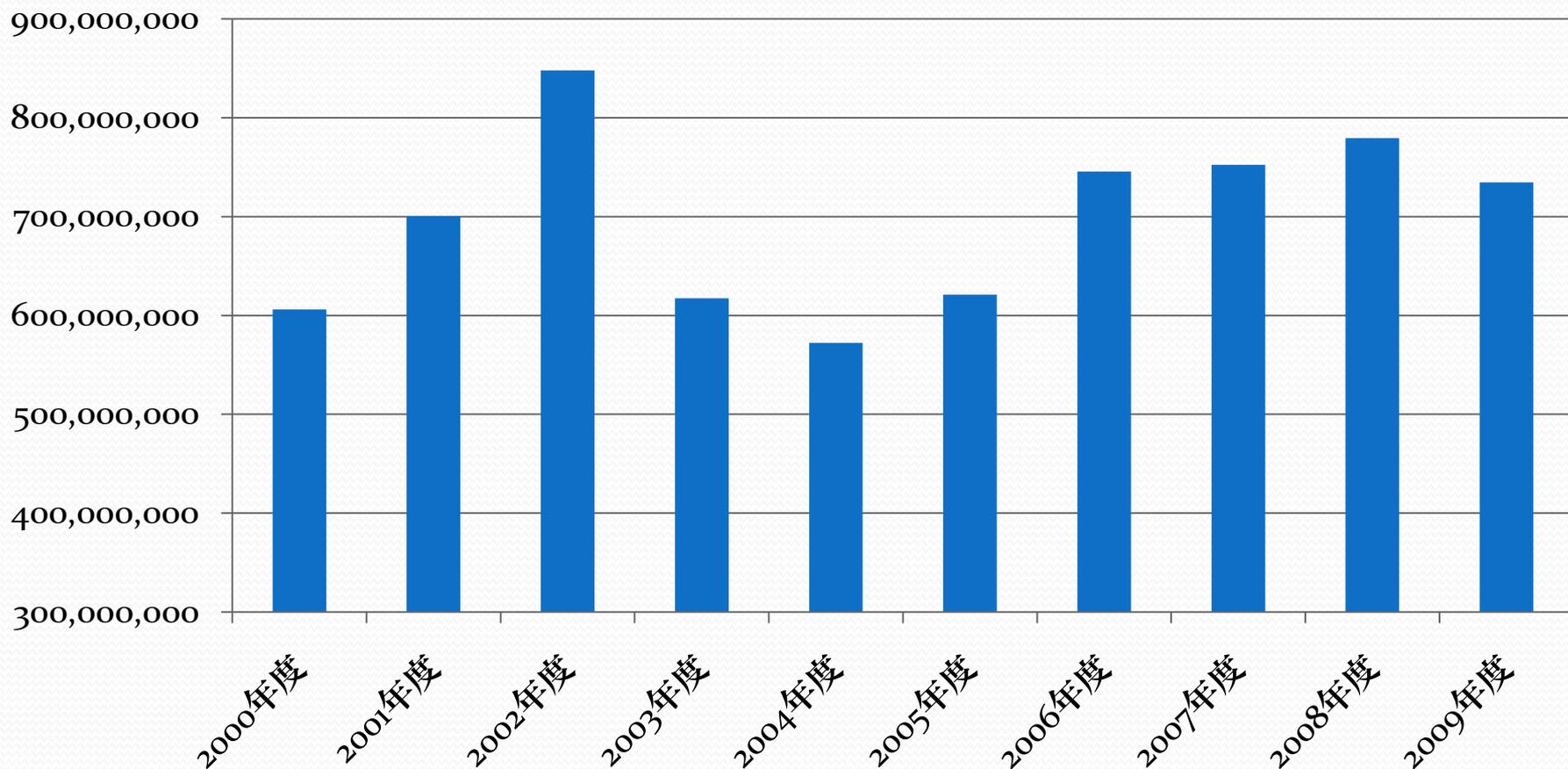
● 基本金

- 企業でいう資本、元手や内部留保といった自己資金に相当
 - 第一号基本金 → 自己資金による施設等の取得額
 - 第二号基本金 → 将来の施設拡充計画に基づく先行的組入れ
 - 第三号基本金 → 奨学基金・研究基金の積立て
 - 第四号基本金 → 学校法人の円滑な運営に必要な運転資金額（前年度末の消費支出合計の1ヶ月分）
- 「基本金組入れ」⇒学校法人会計における最大の問題点、財政分析の障害
- 「ためこみのための」主観的な計算上の金額？

2. 重要用語解説 ⑧

- 教育研究活動(による)キャッシュフロー
 - 帰属収支差額と同じような性格をもつ(=採算性を示す)
 - 教育研究活動キャッシュフローが黒字となっていることが、学校法人の正常な姿
 - 教研キャッシュフローが2年連続で赤字→経営困難状態(イエローゾーン?)
 - 学校法人のストック(自己資金構成比率)は安定しているが、資金繰りを重視する立場から、教育研究活動におけるキャッシュフローが注目されている。

教育研究活動CF(2000年~2009年)



3. Summary – まとめ&提言

3. Summary – 財務分析まとめ①

- 貸借対照表 分析結果

1. 資産 金融資産総額(2009年度)79億円
2. 負債 毎年、確実に減少している
3. 自己資金 基本的に増加傾向

- 消費収支計算書 分析結果

1. 帰属収入 過去10年、53億~56億円 と安定
 - 学生・生徒納付金の安定的確保が大きな要因
2. 消費支出 人件費は過去10年、着実に減少
3. 帰属収支差額 着実に余剰資金(蓄え)を増やしている
 - 2008年度のみ例外(退職給与特定引当金繰入れのため)

帰属収支差額(2000年~2009年)

